

一組織・構成員一

＜中央検査部＞

部長：今北正美  
 科長：三ノ浦保彦 科長代理：原克則  
 主幹：栄川智子、中村雅美  
 臨床検査技師（総数）：31名（うち、非常勤1名、臨時嘱託員4名）

＜輸血部＞

部長：福島健太郎  
 輸血部担当技師：4名（他部門と兼務者含む）

＜病理診断科＞

部長：今北正美  
 病理担当技師：5名（他部門と兼務者含む）

一基本方針・目標一

＜基本方針＞

- ・常に患者様の立場に立って考え行動します。
- ・精度の向上を計り、良質な検査結果を提供します。
- ・業務・経営改善に努力し効率のよい検査を行います。

＜目標＞

- ・検査の迅速化を行い、待ち時間の短縮に貢献する。
- ・検査技術のさらなる向上を目指す。
- ・チーム医療の一員として貢献する。

一各部門の概要及び実績一

＜検体（生化学、免疫、血液、一般）検査部門＞

2016年の件数は、2%程度の微増であった。内訳は外来検査の増加と入院検査の微減である。

6月より生化学自動分析装置コバsc6000が正式稼働した。

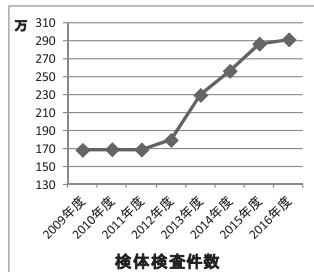
このコバsc6000は老朽化したシーメンスディメンジョンに代わる分析機で、血中薬物濃度やアルコール血中濃度・プレアルブミン等を測定している。コバsc6000の導入により、生化学免疫部門は、生化学自動分析装置3台、免疫自動分析装置4台、血糖・ヘモグロビンA1c2台、浸透圧測定装置2台体制になった。

新規検査項目として、検討中であるがNT-proBNPを現行のBNPと同時測定を開始した。これは2017年夏頃まで実施する予定である。

【今年度の成果と反省点】

更に担当技師を養成すると共に、検体処理や測定装置メンテナンスを強化することにより、機器トラブルも激減し効率的な運用ができようになった。また検査結果報告の迅速化にもつながった。

未採取検査のチェックや検体紛失等の医療安全対策と



して、各部門へ未提出検体情報の配信を開始した。

【来年度への抱負】

採血から結果報告までのプロセスを再検討して、より高精度そして迅速な仕組みを構築したい。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	87,052	85,442	94,766	92,062	97,127	90,703
血清・免疫学的検査	7,536	7,328	8,465	8,098	8,120	8,276
血液学的検査	26,996	26,523	29,101	28,605	29,945	28,202
一般検査	14,932	14,890	16,358	15,708	16,616	15,448
合計	136,516	134,183	148,690	144,473	151,808	142,629

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	91,445	89,059	89,839	88,173	84,961	90,277	1,080,906
血清・免疫学的検査	8,694	8,451	8,372	8,545	8,157	8,578	98,620
血液学的検査	28,539	27,681	28,176	27,654	26,721	28,389	336,532
一般検査	15,005	15,168	15,345	14,752	14,049	15,320	183,591
合計	143,683	140,359	141,732	139,124	133,888	142,564	1,699,649

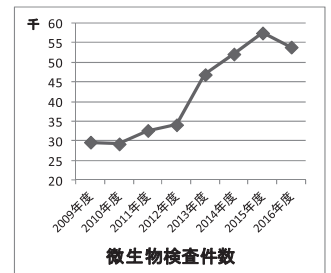
(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	65,026	65,112	57,719	63,700	66,240	62,049
血清・免疫学的検査	1,239	1,419	1,216	1,354	1,317	1,409
血液学的検査	26,045	26,298	23,626	25,843	27,216	25,081
一般検査	11,282	9,935	9,296	10,695	9,973	7,682
合計	103,592	102,764	91,857	101,592	104,746	96,221

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	68,700	64,589	66,447	65,678	60,622	63,007	796,482
血清・免疫学的検査	1,401	1,510	1,426	1,684	1,395	1,312	15,885
血液学的検査	28,005	25,932	27,038	26,492	24,328	25,342	281,489
一般検査	11,279	10,269	9,900	9,060	8,379	10,145	138,079
合計	109,385	102,300	104,811	102,914	94,724	99,806	1,214,712



＜微生物学的検査部門＞

細菌培養検査件数は昨年度に比べ僅かに減少したが、検出される各種耐性菌は多種多様化していて業務量は逆に増加しているように思われた。これらに対応できるようスタッフの知識と技術向上に努め、業務効率化を進めた。



これらに対応できるようスタッフの知識と技術向上に努め、業務効率化を進めた。

【今年度の成果と反省点】

各種耐性菌が増加傾向にある中、当院でも初めてCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）が検出された。院内ではCREを同定する機器設備や試薬が無い中、見逃すことなく、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所（元公衆衛生研究所）の協力の下、ICTと連携して院内感染対策を迅速にとることができた。

【来年度への抱負】

来年度は、経費削減にも気を配りつつも、現状の耐性菌増加に対応すべく、特殊培地の採用を検討し、迅速な院内感染対策に務めたい。また、細菌検査は専門知識と技術、

経験が必要になるため、今後の細菌検査技師の世代交代を視野に入れ、業務に支障が出ないよう早期に次世代の細菌検査技師の育成を開始したい。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
微生物学的検査(一般)	868	897	868	1,150	1,196	1,083	
微生物学的検査(抗酸菌)	119	98	112	90	82	63	
微生物学的検査(迅速)	243	198	183	131	146	149	
合計	1,230	1,193	1,163	1,371	1,424	1,295	

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	1,100	1,182	1,339	1,136	900	1,039	12,758
微生物学的検査(抗酸菌)	102	93	152	125	91	89	1,216
微生物学的検査(迅速)	156	196	285	349	334	249	2,619
合計	1,358	1,471	1,776	1,610	1,325	1,377	16,593

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
微生物学的検査(一般)	2,952	3,338	2,990	3,003	3,130	2,905	
微生物学的検査(抗酸菌)	339	54	101	37	56	54	
微生物学的検査(迅速)	53	20	15	31	21	16	
合計	3,038	3,412	3,106	3,071	3,207	2,975	

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	3,148	2,788	3,083	3,158	2,706	2,904	36,105
微生物学的検査(抗酸菌)	92	59	58	68	47	48	707
微生物学的検査(迅速)	47	55	70	67	59	44	498
合計	3,287	2,902	3,211	3,293	2,812	2,996	37,310



### <病理診断科>

組織部門では老朽化していた自動染色装置やマイクローム、写真撮影装置を更新した。これに加えて、臨床側の要望である乳腺術中迅速診断における遺伝子増幅検査(OSNA)を導入するための安全キャビネットや分析装置も導入し、研修も含めて準備に取り組んでいる。

#### 【今年度の成果と反省点】

従来に比べマクロの写真像が鮮明に撮影できるようになった。しかし組織件数が一昨年あたりから前年比4%の減少傾向にあり対策が求められることや、消耗品などのコスト削減も急務といえる。

#### 【来年度への抱負】

できるかぎり臨床の要望に応えられるように努めたい。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	146	138	168	149	157	166	154	160	167	147	165	165	1,882
術中迅速病理組織標本作成	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	4
細胞診(婦人科材料)	286	307	357	246	220	315	345	340	244	254	249	301	3,464
細胞診(その他材料)	178	151	167	153	165	151	165	181	180	180	178	149	1,998
合計	610	596	692	548	542	632	664	682	592	582	592	616	7,348

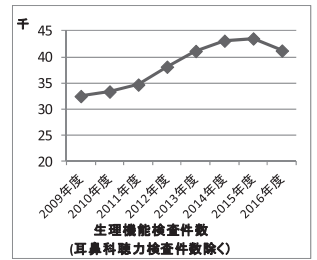
  

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	209	190	206	194	210	230	193	193	206	197	189	230	2,447
術中迅速病理組織標本作成	20	17	15	10	15	15	12	21	17	13	11	15	181
細胞診(婦人科材料)	2	2	2	0	1	1	3	6	5	1	0	6	29
細胞診(その他材料)	20	39	51	49	37	42	35	33	30	41	38	48	463
合計	251	248	274	253	263	288	243	253	258	252	238	299	3,120



### <生理機能検査部門>

増加し続けていた件数が、2016年度は約5%の減少であった。内訳は殆どが入院検査の減少によるものであった。



今年度も新たに超音波認定試験で1名(健診部門)、超音波指導検査士(腹部領域)1名の合格者があり、計7名(計24部門)となった。しかし救命ICU病棟・5階山側病棟・りんくうICU病棟 他病棟のポータブル検査の依頼が超音波検査全体の約8%となり、運営においてマンパワーの不足が懸念された。改善策として、人材の育成が急務と考え複合領域を検査できる技師を育成進行中である。

本年度より、人間ドックにオプションとして甲状腺エコーを追加した。またPSG検査業務にも参入した。

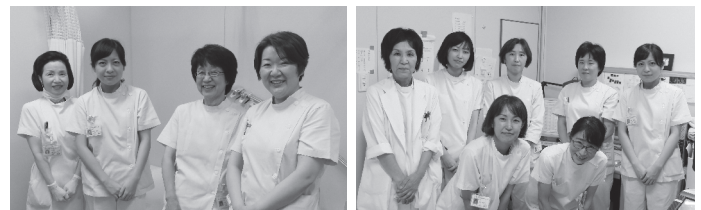
今後の課題としては、予約枠の有効利用、待ち時間の短縮のためシステム導入等を進める必要があると考え、電子カルテ更新時のレポートシステム導入にむけて準備中である。

#### 【今年度の成果と反省点】

超音波診断装置の更新と内部研修の進行により、業務が円滑に進むようになった。

#### 【来年度への抱負】

人材の育成と超音波画像・レポートシステムの導入を目指している。それにより、業務の効率化や収益増・検査待ち時間の短縮につなげたい。



生理機能検査(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	1,003	922	1,066	959	999	911	946	963	893	929	940	1,007	11,538
負荷心電図(トレッドミル含む)	116	117	147	117	138	103	128	128	99	96	107	90	1,386
ホラー心電図	28	31	30	27	18	20	36	30	21	28	21	29	319
簡易呼吸機能	303	264	329	307	315	298	288	316	308	300	311	322	3,661
精密呼吸機能	7	11	7	10	9	9	6	8	8	4	8	8	95
脳波	10	7	14	10	6	8	6	14	10	5	7	8	105
脳波(小児)	4	5	4	6	17	7	3	8	2	6	8	13	83
ABR(新生児)	1	4	3	3	7	1	9	2	10	7	1	3	51
ABI-CAVI	212	184	213	213	179	152	179	158	139	149	184	147	2,109
SPP	17	4	5	10	12	4	7	6	4	3	10	9	91
中心血圧	109	116	114	103	98	85	95	59	63	89	114	79	1,124
呼吸抵抗	34	27	27	31	31	28	21	30	29	23	31	27	339
腹部エコー	279	268	364	369	375	322	341	330	367	337	350	373	4,075
表在エコー(甲状腺を含む)	76	72	101	102	93	86	89	76	66	83	88	70	1,002
乳腺エコー	91	79	71	84	116	76	96	104	84	91	88	100	1,080
心臓エコー	426	385	496	417	435	381	439	367	357	375	403	390	4,871
血管エコー	212	207	237	213	250	238	221	202	176	147	210	187	2,500
関節エコー	1	1	2	1	1	1	0	0	1	1	2	1	12
合計	2,929	2,704	3,230	2,982	3,099	2,730	2,910	2,801	2,637	2,673	2,883	2,863	34,441

耳鼻科外来 聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	96	92	102	91	92	86	93	82	97	93	71	94	1,089
簡易聴検	156	143	135	145	183	144	193	166	190	164	157	159	1,935
気管導(L)	3	5	1	6	8	1	1	2	3	5	5	3	43
気管導(R)	5	4	5	7	4	7	3	2	4	4	6	1	52
ABLB	6	2	2	3	5	4	14	7	6	1	4	4	58
SISI	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	1	7
ディンペノ	58	39	58	52	43	41	35	37	42	49	41	60	555
耳小骨筋	6	8	12	13	8	7	13	3	6	9	6	5	96
OAE	7	9	14	8	5	3	9	1	4	4	3	5	72
電気味覚	5	5	7	9	9	6	11	3	4	8	6	5	78
テスタ味覚	2	2	3	3	6	1	3	2	1	1	1	1	26
語音	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
aABR	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	6
ABR	5	3	4	3	3	4	8	5	8	9	5	9	66
ASSR	3	3	5	2	3	5	6	5	8	9	4	8	61
ENoG	4	4	4	8	6	6	9	3	5	8	7	6	70
Integrity	3	4	1	4	3	1	2	1	0	1	0	0	20
グリセロール	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
耳鳴・耳管機能・ 自記		0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	5	10
合 計	365	329	363	365	386	322	407	321	385	373	324	366	4,306

生理機能検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	92	108	118	96	120	95	103	96	115	112	109	120	1,284
負荷心電図 (レッドフィル含む)	3	6	4	6	9	8	5	13	5	3	5	9	76
ホルター型心電図	11	8	6	8	7	13	6	14	11	6	9	7	106
簡易呼吸機能	20	21	22	15	25	21	26	15	14	19	19	21	238
精密呼吸機能	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脈波	13	11	12	6	19	4	13	24	16	15	17	23	173
脈波(小児)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	4
ABR (新生児)	47	57	47	47	59	62	60	63	62	54	39	62	659
ABI・CAVI	23	14	16	16	24	20	24	20	15	28	23	22	245
SPP	5	0	2	1	2	4	3	0	5	8	0	3	33
中心血圧	8	5	2	3	9	6	5	2	4	8	0	1	53
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹部エコー	82	60	61	57	72	65	48	60	57	59	43	44	708
表在エコー (甲状腺を含む)	4	1	1	3	3	1	5	2	1	1	4	3	29
乳腺エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓エコー	196	198	179	165	185	154	188	197	176	208	155	191	2,192
血管エコー	67	67	78	79	73	65	90	108	77	94	83	80	961
関節エコー	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1	0	1	6
救命ABR	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
合 計	571	556	549	505	608	519	578	614	558	618	506	588	6,770

## <輸血部>

2016年度の輸血関連検査は、外来は増加し入院は件数が減少している。減少の理由は産婦人科の新生児臍帯血での血液型検査の廃止が要因であると思われる。血液製剤の使用数はRBC・FFP・PCすべて前年度より減少している。

### 【今年度の成果と反省点】

クリオプレシピテートの院内作成を開始した。また血縁者間・非血縁者間の造血幹細胞移植の再開に伴った輸血システムの変更を行い、造血幹細胞の管理・移植患者の移植期間の血液型確認ができるように変更を行った。

血液製剤の廃棄額・廃棄率が2015年度より増加した。

### 【来年度への抱負】

在庫数の見直しを定期的に行い、来年度は廃棄額の減少および輸血関連製剤の適正使用を目指す。

クリオプレシピテートも救命診療科のみでなく、倫理委員会の承認が得られれば、産婦人科のクリオプレシピテート使用の要望にも応じていきたい。

輸血関連検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	567	544	603	623	586	587	650	608	653	560	536	615	7,132
スクリーニング	134	154	152	166	157	162	204	175	219	169	153	179	2,024
間接クームス試験	99	84	95	99	83	89	101	93	101	94	73	90	1,101
直接クームス試験	5	3	7	1	7	8	3	5	4	3	4	5	55
合 計	805	785	857	889	833	846	958	881	977	826	766	889	10,312

輸血関連検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	126	73	72	67	73	73	65	56	60	60	61	69	855
スクリーニング	2	2	2	4	1	6	4	2	2	2	2	0	29
間接クームス試験	27	19	18	25	28	20	21	15	22	16	16	19	246
直接クームス試験	4	1	5	1	5	2	1	2	1	0	2	2	26
合 計	159	95	97	97	107	101	91	75	85	78	81	90	1,156

血液製剤使用額・廃棄額 (外来・入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
血液準備単位数 (RBC)	894	956	706	793	1,023	798
血液準備単位数 (FFP)	504	490	433	796	708	590
血液準備単位数 (PC)	1,340	1,215	990	1,315	1,485	1,670
自己血貯血(単位数)	19	16	20	25	20	29
血液製剤購入額(万円)	2,251	2,081	1,682	2,257	2,518	2,291
血液製剤廃棄額	196,102	398,336	478,602	121,007	106,914	141,808
RBC廃棄率(%)	1.6	3.2	8.6	0	0.7	2.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液準備単位数 (RBC)	805	758	954	955	699	544	9,885
血液準備単位数 (FFP)	646	462	524	598	338	290	6,379
血液準備単位数 (PC)	1,205	1,175	1,380	2,075	1,725	1,040	16,615
自己血貯血(単位数)	40	16	20	37	10	31	283
血液製剤使用額(万円)	2,026	1,876	2,265	3,324	2,267	1,534	26,372
血液製剤廃棄額	284,174	488,850	249,094	142,552	142,366	462,001	3,211,806
RBC廃棄率(%)	3.8	5.1	2.2	0.9	1.9	5.9	

## 一 認定検査士一

### ・超音波検査士

(超音波指導検査士(腹部領域))1名  
(消化器領域)7名、(循環器領域)3名、(表在領域)5名  
(泌尿器領域)3名、(血管領域)1名、(健診領域)4名

- ・細胞検査士 (日本資格)5名、(国際資格)3名
- ・認定血液検査技師 2名 ・骨髄検査技師 1名
- ・認定輸血検査技師 1名
- ・救命検査認定技師 2名 ・緊急臨床検査士 1名